



## SDGsの時代に欠かせない職人の匠

原則毎週末、東京から山梨市に畑仕事で通うが、山梨市やお隣りの甲州市をはじめとして山梨県内には信玄の菩提寺・恵林寺をはじめとして向嶽寺、清白寺、放光寺等々すぐれた神社・仏閣が多い▼こうした建築物を可能にできたのが匠の技であり、今も頑張っている一つが伝匠舎石川工務所で、創業が1156年というから驚きだ。石川工務所は『風流美(ふるび)』なる社報を定期発行しており、これを見るたびに、その哲学と造形美に感嘆させられている。ベースにあるのは、家は本来、30〜50年を耐用年数とするような「消費財」ではなく、「社会資本」として長く住み続けられるものでなければならぬ、とする考えである。そして木や土といった自然素材は、「時を重ねるごとに風合いや艶を増し、より美しく」なるものであり、この「時とともに価値が増す美しさ」＝風流美が、そこには現れてくる。本来、民家はもつと長持ちするものだとして、持続可能な社会を目指して、「長生き建築」を「抑CO2」で作り、社会資本を増強していくことを基本的に業務展開されている▼ちやうど「風流美」が届いた頃に、30年間乗り続けてきた自転車が、スタンドのスプリングが切れたり、老朽化が著しいことから買い替えをするつもりで、東京の自宅に近いE自転車店に持ち込んだ。そうしたところがこのB社の自転車は30年前は国産だったものが、今では中国製に代わってしまい、安くなったものの品質は大幅に低下。まだ愛着があるなら、傷んだ部品を交換・整備して乗ったほうがいい、とのアドバイス。結局はドックに入れて全面リフレッシュ。その後、調子は至極いい。ここにもまだ職人が残っていることを実感。持続可能な社会のカギは、長持ち、リユース。時代は職人の技を強く求め

(土着菌)